

カリキュラムマップ

人文科学研究科教育・臨床心理専攻 博士課程前期 R7年度以降入学生適用 (学位：修士(教育学))

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

DP1：教育学諸領域に関する専門的知識を有し、教育実践の現場での課題を学術的に検討・解明するために、それらを活用することができる。

【技能】

DP2：論文作成において必要な教育分野に関する高度で専門的な研究方法を修得している。

【態度・志向性】

DP3：研究倫理に関する基本的な規範意識を身に着けている。

DP4：社会における教育の役割を理解し、地域社会に積極的に貢献していく姿勢を有している。

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

種目	分野	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解 技能 態度・志向性			
						DP1	DP2	DP3	DP4
選択必修 科目	教育	教育人間学特講Ⅰ	2	1	前期	◎	○	○	○
		教育人間学特講Ⅱ	2	1	後期	◎	○	○	○
		キャリア教育論特講Ⅰ	2	1	前期	◎	○	○	○
		キャリア教育論特講Ⅱ	2	1	後期	◎	○	○	○
		社会教育学特講Ⅰ	2	1	前期	◎	○	○	○
		社会教育学特講Ⅱ	2	1	後期	◎	○	○	○
		道德教育哲学特講Ⅰ	2	1	前期	◎	○	○	○
		道德教育哲学特講Ⅱ	2	1	後期	◎	○	○	○
		教育人間学演習Ⅰ	2	2	前期	○	◎	◎	○
		教育人間学演習Ⅱ	2	2	後期	○	◎	◎	○
		キャリア教育論演習Ⅰ	2	2	前期	○	◎	◎	○
		キャリア教育論演習Ⅱ	2	2	後期	○	◎	◎	○
		社会教育学演習Ⅰ	2	2	前期	○	◎	◎	○
		社会教育学演習Ⅱ	2	2	後期	○	◎	◎	○
		道德教育哲学演習Ⅰ	2	2	前期	○	◎	◎	○
		道德教育哲学演習Ⅱ	2	2	後期	○	◎	◎	○
		教育システム論特講Ⅰ	2	1	前期	◎	○	○	○
		教育システム論特講Ⅱ	2	1	後期	◎	○	○	○
		ジェンダーと教育論特講Ⅰ	2	1	前期	◎	○	○	○
		ジェンダーと教育論特講Ⅱ	2	1	後期	◎	○	○	○
		教師教育論特講Ⅰ	2	1	前期	◎	○	○	○
		教師教育論特講Ⅱ	2	1	後期	◎	○	○	○
		異文化間教育論特講Ⅰ	2	1	前期	◎	○	○	○
		異文化間教育論特講Ⅱ	2	1	後期	◎	○	○	○
		教育システム論演習Ⅰ	2	2	前期	○	◎	◎	○
		教育システム論演習Ⅱ	2	2	後期	○	◎	◎	○
		ジェンダーと教育論演習Ⅰ	2	2	前期	○	◎	◎	○
		ジェンダーと教育論演習Ⅱ	2	2	後期	○	◎	◎	○
		教師教育論演習Ⅰ	2	2	前期	○	◎	◎	○
		教師教育論演習Ⅱ	2	2	後期	○	◎	◎	○
		異文化間教育論演習Ⅰ	2	2	前期	○	◎	◎	○
		異文化間教育論演習Ⅱ	2	2	後期	○	◎	◎	○

選択科目	教育学研究特講Ⅰ	2	1	集中前期	◎		○	○
	教育学研究特講Ⅱ	2	1	集中前期	◎		○	○
	教育学研究特講Ⅲ	2	1	前期	◎		○	○
	教育調査・統計論特講	2	1	後期	○	◎	○	
	臨床教育論特講	2	1	後期	○			○
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	1	集中後期	○			○
	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	2	前期	○			○
	教育分野に関する理論と支援の展開	2	1	集中前期	◎			○
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	2	前期	◎			○
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	1	前期	◎			○
	心理的アセスメントに関する理論と実践	2	2	後期	○			○
	心理支援に関する理論と実践	2	2	前期	○			
	家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践	2	2	前期	○			○
	心の健康教育に関する理論と実践	2	1	前期	○			○
	心理実践実習Ⅰ	2	1	前期	○			○
	心理実践実習Ⅱ	2	1	後期	○			○
	心理実践実習Ⅲ	2	2	前期	○			○
	心理実践実習Ⅳ	2	2	後期	○			○
	心理実践実習Ⅴ	2	1	2年通年	○			○

※博士課程前期の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。（ただし、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

・必要修得単位：32単位以上

選択必修科目：8単位（当該分野の特講4単位、演習4単位）

選択科目：24単位以上（当該又は他の分野の授業科目のうちから24単位以上）

※演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。

・修士の学位論文を提出する。

特講科目・・・教育学に関する講義を行う。教育学に関する専門的で高度な知識および理論を修得し、研究活動に活かす能力を身につける。

演習科目・・・教育学に関する協議を行う。研究指導を受けて修士論文の作成を行う。教育学に関する研究方法を用いて研究を遂行する能力を身につける。

1年次・・・教育学研究に関する現状の把握と研究遂行に必要な基礎力の養成

・演習・特講科目を通して研究遂行に必要な知識・理解および技能を身につける。

・指導教員の指導により研究計画書を作成し、修士論文構想発表会（10月）にて研究進捗状況の報告を行い、他の教員および大学院生の指導・助言を受ける。

・一定レベル以上の研究成果が得られた場合には学会発表や論文投稿を行い、広く内外の評価を受ける。

2年次・・・教育学に関する研究を実施し、専門的知識に基づいた論理的説明能力と研究遂行力の養成

・1年次の総括を踏まえ適宜研究計画の見直しを行い、指導教員による個別指導を受け、論文作成を進める。

・修士論文中間報告会（5月及び10月）にて研究の進捗および研究成果を発表し、指導教員以外他の教員や大学院生の指導・助言を受ける。

・一定レベル以上の研究成果が得られた場合には学会発表や論文投稿を行い、広く内外の評価を受ける。

・修士論文題目を提出し、引き続き、主査・副査の指導を受ける。

・修士論文を提出し、修士論文発表会での口頭試問および最終試験を受ける。

カリキュラムマップ

人文科学研究科教育・臨床心理専攻 博士課程前期 R7年度以降入学生適用 (学位：修士(臨床心理学))

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

DP1：高度専門職業人（公認心理師）として臨床心理学に関する専門的で高度な知識や理論を修得し、臨床実践や研究活動に活かすことができる。

【技能】

DP2：臨床心理学に関する研究方法を用いて研究を遂行する能力を有している。

DP3：資格取得に求められる基本的な実践技能を有している。

【態度・志向性】

DP4：研究倫理に関する基本的な規範意識を身に着けている。

DP5：心理専門職を目指すものとしての倫理観（人への関心と人権を尊重する倫理観）を有している。

DP6：心理専門職を目指すものとしての共感的態度を有している。

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

種目	部門	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解			技能			態度・志向性		
						DP1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6			
選択必修科目	臨床心理	臨床心理学特講Ⅰ	2	1	前期	○			○	○	○			
		臨床心理学特講Ⅱ	2	1	後期	○			○	○				
		臨床心理学特別演習Ⅰ	2	2	前期	◎	◎		○					
		臨床心理学特別演習Ⅱ	2	2	後期	◎	◎		○					
選択科目		教育学研究特講Ⅰ	2	1	集中前期	◎			○	○				
		教育学研究特講Ⅱ	2	1	集中前期	◎			○	○				
		教育学研究特講Ⅲ	2	1	前期	◎			○	○				
		教育調査・統計論特講	2	1	後期	○	◎		○					
		臨床教育論特講	2	1	後期	○		○			○	○		
		保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	1	集中後期	○		○			○	○		
		福祉分野に関する理論と支援の展開	2	2	前期	○		○			○			
		教育分野に関する理論と支援の展開	2	1	集中前期	◎		○			○	○		

司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	2	前期	◎		○		○	○
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	1	前期	◎		○		○	
心理的アセスメントに関する理論と実践	2	2	後期	○		◎		○	○
心理支援に関する理論と実践	2	2	前期	○		○			○
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	2	前期	○		○		○	
心の健康教育に関する理論と実践	2	1	前期	○		◎		○	○
心理実践実習Ⅰ	2	1	前期	○		◎		○	○
心理実践実習Ⅱ	2	1	後期	○		◎		○	○
心理実践実習Ⅲ	2	2	前期	○		◎		○	○
心理実践実習Ⅳ	2	2	後期	○		◎		○	○
心理実践実習Ⅴ	2	1	2年通年	○		◎		○	○

※博士課程前期の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。（ただし、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

- ・必要修得単位：32単位以上
- ・選択必修科目：8単位（当該分野の特講4単位、演習4単位）
- ・選択科目：24単位以上（当該又は他の分野の授業科目のうちから24単位以上）
- ※当該分野の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。
- ・修士の学位論文を提出する。

特講科目・・・臨床心理学に関する講義を行う。臨床心理学に関する専門的で高度な知識や理論を修得し、臨床実践や研究活動に活かす能力を身につける。また、臨床心理学に関する研究方法を用いて研究を遂行する能力を身につける。さらに、心理専門職を目指すものとしての人への関心と人権を尊重する倫理観及び共感的態度を身につける。

演習科目、実習科目・・・臨床心理学に関する討議、実習を行う。臨床心理学に関する専門的で高度な知識や理論を修得し、臨床実践や研究活動に活かす能力を身につける。また、臨床心理学に関する研究方法を用いて研究を遂行する能力を身につける。さらに、心理専門職を目指すものとしての人への関心と人権を尊重する倫理観及び共感的態度を身につける。

1年次・・・臨床心理学研究に関する現状の把握と研究遂行の基礎力の養成

- ・演習、特講の講義において研究能力や実践能力を身につける。
- ・指導教員の指導により「研究計画書」を作成し、指導教員が担当する「演習」において中間報告を行う。研究の進捗状況報告、教員や大学院生から指導・助言を受ける。

2年次・・・臨床心理学に関する研究を実施し、専門的知識に基づいた論理的説明能力と研究遂行力の養成

- ・1年次の総括を踏まえ、必要に応じて研究計画の見直しを行い、指導教員による個別指導を受け、論文作成を進める。
- ・修士論文中間報告会（6月）にて研究の進捗および研究成果を発表し、指導教員以外の教員や大学院生の指導・助言を受ける。
- ・一定レベル以上の研究成果が得られた場合には学会発表や論文投稿を行い、広く内外の評価を受ける。
- ・修士論文題目を提出し、引き続き、主査・副査の指導を受ける。
- ・修士論文を提出し、修士論文発表会での口頭試問および最終試験を受ける。

カリキュラムマップ

人文科学研究科教育・臨床心理専攻 博士課程後期 R7年度以降入学生適用 (学位：博士(教育学))

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

DP1：教育学諸領域に関するより専門的で最先端の知識を有し、既存の水準を超える学問的な体系に寄与するため、それらを活用することができる。

【技能】

DP2：教育学に関する科学性および倫理性が担保された方法を用いて研究を遂行することができる。

【態度・志向性】

DP3：研究倫理に関する規範意識を身に着けている。

DP4：教育学に関する高度な専門的・実践能力を兼ね備え、自立した研究者としての態度・姿勢を持っている。

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

部門	研究指導科目	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能	態度・志向性	
					DP1	DP2	DP3	DP4
教育学	教育学特別研究Ⅰ	4又は12	1	3年通年	◎	◎	◎	○
	教育学特別研究Ⅱ	4又は12	1	3年通年	◎	◎	◎	○
	教育学特別研究Ⅲ	4又は12	1	3年通年	◎	◎	◎	○
	教育学特別研究Ⅳ	4又は12	1	3年通年	◎	◎	◎	○
	教育学特別研究Ⅴ	4又は12	1	3年通年	◎	◎	◎	○
	教育学特論Ⅰ	4	1	通年	◎	○		○
	教育学特論Ⅱ	4	1	通年	◎	○		○
	教育学特論Ⅲ	4	1	通年	◎	○		○
	教育学特論Ⅳ	4	1	通年	◎	○		○
	教育学特論Ⅴ	4	1	通年	◎	○		○

※博士課程後期の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。（優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

必要修得単位：12単位以上

必修科目：12単位（専修科目の特別研究科目）

※一つの特別研究を選定し、これをその学生の専修科目とする。

※特別研究科目は3年間12単位の履修を原則とするが、専修科目としない場合は、1年間4単位の履修も認めることがある。

※専修科目の研究指導（特別研究）担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受ける。

・博士の学位論文は、専修科目について提出する。

特論科目：教育学に関する講義・協議を行う。特論科目を通して、教育学に関する専門的で高度な知識および理論を修得し、研究活動に活かす能力を身につける。

特別研究科目：教育学に関する研究の協議を行う。特別研究を通して、教育学に関する研究方法を用いて研究を遂行する能力を身につける。

1年次・・・研究課題構想能力の養成

- ・教育学特別研究において、研究指導教員の指導のもと、研究の独創性や学術的な意義を考慮して研究課題の設定に取り組む。
- ・特論科目において教育学に関する最新の知見および研究方法論を学ぶ。
- ・1年次の博士論文構想発表会で研究計画を報告する。

2年次・・・研究課題発表能力の養成

- ・教育学特別研究において研究指導教員の指導を継続して受ける。
- ・分野内で実施する研究経過報告会で研究進捗状況を報告し、研究指導教員および他の教員より多面的かつ学際的な視点から研究テーマに関する指導を受ける。
- ・学会等での発表や論文投稿を積極的に行い、広く内外の評価を受ける。

3年次・・・論文作成能力の養成

- ・教育学特別研究において研究指導教員の指導を受けつつこれまでの研究成果をまとめ、学位論文を執筆する。
- ・博士論文中間報告会で報告し、指導を受ける。
- ・研究指導教員の承認を得て学位論文を提出し、学位審査請求を行う。
- ・博士学位申請論文発表会（公聴会）（最終試験）を行う。